

嶺南をサイクリング観光の聖地に

福井県は木ノ芽峠を境に嶺北、嶺南に分かれる。南西側に当たる嶺南は東西に細長く、敦賀市、小浜市など構成6市町のすべてが若狭湾に面する。リアス式海岸で知られるこの湾には多数の支湾があり、それを敦賀半島、常神半島、内外海半島、大島半島などが隔てる。東西の中ほどには「五色の湖」といわれる三方五湖。自然に恵まれた福井県の中でも嶺南は特に風光明媚な所である。

この嶺南を舞台に、国のナショナルサイクルルート指定を目指す取り組みが今年6月、動き始めた。官民の「若狭湾サイクリングルート（仮称）推進協議会」が発足。全長約126kmと想定されるコースの確定、通行帯標識などの安全対策、サイクリング拠点などのサポート体制づくりがこれから本格化する。

コロナ収束後の観光がどんな姿になっていくか、今はまだ想像が難しい。とはいえ、屋外で、密になることなく、体験型観光が可能なサイクルルートは、時代をつかんでいるといえないか。東京五輪を終えたばかりの今、スポーツへの興味関心が高まっていることにも期待が持てる。冒頭にくだく述べたように観光素材も一級だ。お隣の滋賀県にある琵琶湖周遊ルート「ピワイチ」にも決してひけを取らないものがつくれるはずだ。

加えて嶺南は、歴史的な観光素材もふんだんにある。県がPR事業として「若狭おばまの秘仏めぐり」と銘打ったバスツアーを展開したことがあるが、サイクリングと組み合わせるのも面白い。フグ、カキ、サバ、ウナギといった地域特産を中心とする海の幸も目玉になる。新しい時代の観光プロジェクトを大きく、スピード感を持って育てたい。

一つ気がかりは、JR西日本が半ば強引に進める小浜線の減便方針だ。地域の利便性が低下し、魅力を損なうことにならないか。同社は推進協議会のメンバーでもある。地域を元気づけるために具体的で責任ある提案が、同社から示されることを期待したい。

福井新聞論説委員長 田中禎浩



2019年に嶺南で行われた自転車のイベント
県内外から1000人以上の参加があった。